

科目名	特別演習（卒業必修）		
授業形態	演習	学年	2
開講時期	2023年度 前期～後期	単位数	2
担当教員	高田 正哉		
内容および計画	本講義では、1年間の学修を踏まえ、自らの理想とする保育／教育／福祉のあり方を協働的に学び、考え、表現することを主とする。そのことを通して、自ら主体的に実践する力を涵養し、他者対話的・協働的に実践を深められる「反省的実践家」となることを目指す。本講義では、「プロジェクト活動」を主として学ぶ。「プロジェクト学習」とは、個々人が学びの目的と方法を設定し、自らの理想を達成していく中で学びを深めていく学習法である。本講義では「プロジェクト活動」を学生自身が行うことで、「反省的実践家」としての資質・能力を涵養していく。		
1	第1回 ガイダンス ゼミ生間でプロジェクト活動の考え方を共有し、どのようなプロジェクトを実施したいかを話し合う。		
2	第2回 ワークショップ？ ゼミ生間でどのようなプロジェクト活動を実施するか、具体的な目標設定を行う。		
3	第3回 ワークショップ？ 第2回のワークショップを振り返り、具体的にどのような学びを進めるかを決定する。		
4	第4回 ワークショップ？ プロジェクト活動を具体的にどのように展開するのか、年間の学習計画を立てる。		
5	第5回 事例分析？ プロジェクト活動の計画を立てる上で参考となる事例を取り上げ、分析する。		
6	第6回 事例分析？ プロジェクト活動の計画を立てる上で参考となる事例を発表しあい、学びあう。		
7	第7回 事例分析？ 事例分析を踏まえて、プロジェクト活動の目的・目標を見直し、具体的な計画としていく。		
8	第8回 プロジェクト活動？		
9	第9回 プロジェクト活動？		
10	第10回 中間発表 プロジェクト活動の途中経過を共有し、計画案の反省を行う。		
11	第11回 プロジェクト活動？		
12	第12回 プロジェクト活動？		
13	第13回 プロジェクト活動？		
14	第14回 前期のプロジェクト活動振り返り		
15	第15回 前期の振り返り		
16	第16回 後期の目標設定 前期の学修を振り返り、後期のプロジェクトの計画を考える。		
17	第17回 プロジェクト活動		
18	第18回 プロジェクト活動		
19	第19回 プロジェクト活動		
20	第20回 プロジェクト活動		
21	第21回 プロジェクト活動		
22	第22回 プロジェクト活動		
23	第23回 プロジェクト活動		
24	第24回 プロジェクト活動		
25	第25回 プロジェクト活動		
26	成果発表会準備？		
27	成果発表会準備？		
28	成果発表会準備？		

29	第29回 発表会? プロジェクト活動の成果発表を行う。																														
30	第30回 発表会? プロジェクト活動の成果発表を行う。																														
教科書																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>タイトル</th> <th>著者名</th> <th>出版社</th> <th>ISBN</th> <th>発行年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年																									
タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年																											
参考書	<p>岸政彦他著『質的社会調査の方法 -- 他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2016年。</p> <p>工藤保則他編『質的調査の方法〔第2版〕：都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社、2016年。</p> <p>N・L・デンジン、Y・S・リンカン編『質的研究ハンドブック1巻：質的研究のパラダイムと眺望』北大路書房、2006年。</p> <p>N・L・デンジン、Y・S・リンカン編『質的研究ハンドブック2巻：質的研究の設計と戦略』北大路書房、2006年。</p> <p>N・L・デンジン、Y・S・リンカン編『質的研究ハンドブック3巻：質的研究資料の収集と解釈』北大路書房、2006年。</p>																														
成績評価																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロジェクト活動の成果発表</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>プロジェクト活動への貢献度</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>成果物</td> <td>20</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	評価方法	割合(%)	プロジェクト活動の成果発表	40	プロジェクト活動への貢献度	40	成果物	20																						
評価方法	割合(%)																														
プロジェクト活動の成果発表	40																														
プロジェクト活動への貢献度	40																														
成果物	20																														
学習到達目標	<p>①主体的に対話的にプロジェクトを進め、教育／保育／福祉へ貢献できる資質・能力を養うこと</p> <p>②プロジェクト活動を達成し、教育／保育／福祉の発展に実際に貢献すること</p>																														
先修条件	プロジェクト活動を通してどのような実践者となるのかの見通しを持って講義に臨むこと。																														
実務経験																															
その他																															